

「食道癌手術胃管再建時の幽門形成術に関する観察研究」

ご協力をお願い

1. 研究の背景と必要性

食道癌に対する手術、再建方法としては胃を用いた胃管再建が一般的であります。術後経口摂取において、胃幽門輪の弛緩不全により通過障害を来す患者様があり、従来から手術時にブジーなどを慣例的におこなっていた歴史があります。しかしながら保存加療で改善せず、待機的に幽門形成術を施行し通過障害が改善し経口摂取量増加、栄養状態改善につながる患者様も一定数おられます。

経口摂取低下による術後 ADL 低下を予防する目的として、初回手術時の胃管再建時に幽門形成術を行うことで術後経口摂取減少を軽減する可能性があります。

食道癌手術胃管再建時の幽門形成術に関する治療効果を評価・解析することで、安全性や臨床的意義を明らかにし、治療成績の向上に寄与できると考えています。

2. 実施施設および担当医師

京都第一赤十字病院消化器外科	小松 周平(責任研究医師)
京都第一赤十字病院消化器外科	小西 智規(分担研究医師)

3. 研究の方法

当科患者データベース 2014 年 1 月から 2025 年 6 月に登録された方を対象として、手術を施行した食道癌手術症例の背景因子及び治療成績に関して検討を行います。その有用性について検討し、2025 年 6 月からは全ての食道癌患者様に対して観察研究を行います。

抽出するデータは、以下の通りです。

- ① 関連情報:術後退院日数、合併症、画像所見、各種血液検査データ、病理診断結果、生存や再発に関する予後情報など

データベースから(2014 年 1 月から 2025 年 6 月)

- ② 患者基本情報:性、年齢、罹病期間、身長、体重など

本研究の対象患者のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院 消化器外科にて行います。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

4. 患者様の利益・不利益(リスク)および同意取得

本研究では、手術時に幽門形成術を行います。安全な手技であり、患者様への負担は最小限と考えられます。本研究への参加に関しては、本掲示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。同意いただけない場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

5. 事務局・患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地 京都第一赤十字病院 消化器外科

電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308

責任研究医師氏名 小松周平 (shuhei-komatsu@kyoto1.jrc.or.jp)